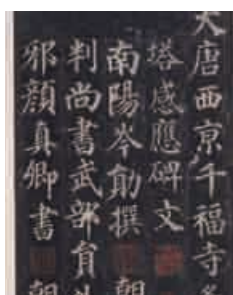


拓本の世界

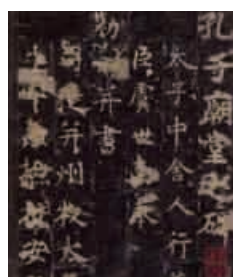
3 館所蔵 善本碑帖展

3 館同時開催による拓本名品展 世界屈指のコレクションを一挙公開

- 東京国立博物館「^{かいあんきょ ひじょう}槐安居中国碑帖コレクション」 4/17 (火) ~7/1 (日)
- 三井記念美術館「中国五千年 漢字の姿 [フォルム]」
三井聴永閣拓本名帖の全貌 4/21 (土) ~7/1 (日)
- 台東区立書道博物館「^{ふせつひじょう}中村不折碑帖コレクション」 4/28 (土) ~7/1 (日)



千福寺多宝塔碑
東京国立博物館蔵



孔子廟堂碑
三井記念美術館蔵



泰山刻石—百六十五字本—
台東区立書道博物館蔵

東京国立博物館、三井記念美術館、台東区立書道博物館の3館は、同時期に各館で所蔵する拓本の名品を展示します。中国で文字が誕生したのは紀元前といわれますが、中国の名高い書家である王羲之(303?—361?)の筆跡はもとより、唐時代以前の肉筆は、現存するものがほとんどありません。古い時代の文字を今に伝える拓本は、漢字の変遷をうかがい、失われた歴史上の事実を伝える上で重要な役割を果たしているのです。世界で最も古い拓本は唐時代のものといわれています。3館は中国にも現存しない唐(618—907)、宋(960—1279)時代の貴重な拓本を所蔵しており、そのコレクションを合わせると、国内優品の大多数をカバーするため、本展は日本最大級の拓本展となります。唐拓孤本の「孔子廟堂碑」(三井記念美術館)や、宋拓孤本の「婁寿碑」(東京国立博物館)、拓本が4本しか伝存しない宋拓の「西嶽華山廟碑」(台東区立書道博物館)などは、いずれもすでに原石が現存しない稀少な作例です。この展覧会は、世界でも有数の名品の数々を一望できる貴重な機会となるでしょう。展示数は3館あわせて約200点。会期中は、3館を鑑賞していただく方のための特典(割引)制度もあります。是非とも3館あわせてご覧いただきたくご案内いたします。

◆報道関係の方からのお問い合わせ先

東京国立博物館 広報室	TEL 03-3822-1111 (代)	担当: 小林、遠藤
三井記念美術館 広報事務局	TEL 03-3814-7713	担当: 富樫、松井
台東区立書道博物館	TEL 03-3872-2645	担当: 鍋島

E-mail togashi@prininfo.co.jp

拓本の世界

3 館所蔵 善本碑帖展 ぜんほんひじょう

Selected Rubbing Masterpieces of Chinese Stele Inscriptions
—Three Great Connoisseurs in Modern Japan—

開催概要

東京国立博物館 「かいあんきょ ひじょう槐安居中国碑帖コレクション」

Tokyo National Museum: The Chinese Rubbings from the *Takashima Kikujiro* Collection

- 会 期： 2007 年 4 月 17 日（火）～7 月 1 日（日）
- 会 場： 東京国立博物館 東洋館第 8 室
(台東区上野公園 13-9)
JR 上野駅公園口徒歩 10 分、鶯谷駅南口徒歩 10 分、京成電鉄京成上野駅徒歩 15 分、
東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅徒歩 15 分、千代田線根津駅徒歩 15 分
- 開館時間： 9:30～17:00（入館は閉館の 30 分前まで）
土・日曜、祝日は 18:00 まで、6 月 15 日までの毎週金曜日、
および 4 月 27 日から 5 月 6 日は連日 20:00 まで開館
- 休 館 日： 月曜日（4 月 30 日（月・休）は開館、6 月 26 日（火）は休館）
- 観 覧 料： 一般 600(500)円、大学生 400(300)円
*（ ）内は 20 名以上の団体料金です
*高校生以下、満 70 歳以上の方は平常展無料。障害者とその介護者 1 名は無料
*5 月 18 日（金）国際博物館の日は、どなたでも無料
*同時期開催特別展「レオナルド・ダ・ヴィンチ ー天才の実像」(3/20～6/17)は
別途観覧料が必要です
- 読者からのお問い合わせ先： TEL03-5777-8600 ハローダイヤル
- ホームページ： <http://www.tnm.jp/>

三井記念美術館 「中国五千年 漢字の姿[フォルム]」三井聴水閣拓本名帖の全貌 ていひょうかく めいじょう

Mitsui Memorial Museum: The Form of *Kanji*—Five Thousand Years of Chinese Characters
The Complete Works and Background of the *Mitsui Teihyōkaku* Collection

- 会 期： 2007 年 4 月 21 日（土）～7 月 1 日（日）
- 会 場： 三井記念美術館
(東京都中央区日本橋室町 2 丁目 1 番 1 号 三井本館 7 階)
東京メトロ銀座線「三越前」駅徒歩 1 分、半蔵門線「三越前」徒歩 3 分
銀座線・東西線「日本橋」駅徒歩 4 分メトロリンク「三井記念美術館前」
- 開館時間： 10:00～17:00（入館は 16:30 まで）
- 休 館 日： 月曜日（5 月 1 日（火）は休館、4 月 30 日（月・休）は開館）
- 観 覧 料： 一般 800 円（700 円）、大学・高校生 500 円（400 円）、小・中学生 無料
*70 歳以上、又は、20 名以上の団体の方は（ ）内割引料金となります
*障害者手帳をご呈示のお客様、およびその介護者（1 名）は無料です
- 読者からのお問い合わせ先： TEL03-5777-8600 ハローダイヤル
- ホームページ： <http://www.mitsui-museum.jp/>

台東区立書道博物館 「中村不折碑帖コレクション」 ふせつ

Calligraphy Museum: The Chinese Rubbings from the *Nakamura Fusetsu* Collection

- 会 期： 2007 年 4 月 28 日（土）～7 月 1 日（日）
- 会 場： 台東区立書道博物館
(台東区根岸 2 丁目 10 番 4 号) JR 鶯谷駅(北口) 徒歩 5 分
- 開館時間： 9:30～16:30（入館は 16:00 まで）
- 休 館 日： 月曜日（5 月 1 日（火）は休館、4 月 30 日（月・休）は開館）
- 観 覧 料： 一般 500 円（300 円）、小・中・高校生 250 円（150 円）
*（ ）内は 20 名以上の団体料金です
- 読者からのお問い合わせ先： TEL03-3872-2645
- ホームページ： <http://www.taitocity.net/taito/shodou/>

展覧会のみどころ

● またとない大拓本展開催

本展覧会は、「拓本の世界－3館所蔵善本碑帖展」として、国内でも有数の拓本コレクションを所蔵する、東京国立博物館(上野)、三井記念美術館(日本橋)、台東区立書道博物館(鶯谷)の連携企画です。

東京国立博物館は高島菊次郎コレクション、三井記念美術館は三井高堅^{たかかた}コレクション、台東区立書道博物館は中村不折^{ふせつ}コレクションを展示します。いずれも国内屈指の拓本コレクションであり、3館あわせると国内優品の大多数をカバーすることになります。この3館を巡ることで、個々の館の収蔵品の特質が明らかになるとともに、単館では見つくせない大拓本展を鑑賞いただけます。

2004年に3館同時に拓本展を開催し、来館者の好評を博しました。上野(JR、銀座線)、鶯谷(JR)、日本橋三越前(銀座線)という近隣館で、利便性・巡回性も高く、3館巡れば1日たっぷり楽しめるはずです。展示のほか、講演会(ギャラリートーク)、ワークショップなども各館で企画しています。

3館をめぐる拓本の旅

● 割引料金での入場

会期中、観覧券売場にて、他の2館いずれかの観覧券半券をご提示いただくと、団体割引料金でご観覧いただけます。

東京国立博物館	一般	600円	→	500円
	大学生	400円	→	300円
	高校生以下、満70歳以上の方は無料			
三井記念美術館	一般	800円	→	700円
	大学・高校生	500円	→	400円
	70歳以上の方は、団体割引料金となるため700円			
台東区立書道博物館	小・中学生	無料		
	一般・大学生	500円	→	300円
	小・中・高校生	250円	→	150円

例：東京国立博物館を観覧する場合、三井記念美術館または台東区立書道博物館の観覧券を提示すれば、団体割引料金で観覧できます。

「槐安居中国碑帖コレクション」 4月17日(火)～7月1日(日)

展覧会概要

高島菊次郎氏(1875～1969)は、日本の製紙業界に大きな貢献を残すかたわら、中国の文化に深い関心を示し、大いなる熱意をもって中国の書画を蒐集されました。東洋館に寄贈された 300 余件のコレクションは、常に東洋館の陳列を支え、今なお多くの愛好者・研究者の渴を癒し、貴重な資料を提供しています。

高島コレクションの碑帖類は、45 件を数えます。その数は決して多くはありませんが、中国書法史上の名品と賞賛されるものが少なくありません。古くから海内の孤本として珍重されてきた漢時代の「婁寿碑」、清時代の収蔵家・李宗瀚の十宝の一つとして喧伝される「晋唐小楷冊」、米芾が自らの学書の経緯を記した「群玉堂米帖」などは、気品ある古香をただよわせて、真跡とは別種の魅力に満ちた作品です。参考作例として、碑帖の影響を伝える清時代の真跡もあわせて展示いたします。今回の展示総数 34 点、宋拓の醸し出す玄妙な墨調と、金石の気を存分にお楽しみください。

代表作品



婁寿碑(宋拓) 後漢時代・2世紀

漢時代の儒者の婁という人物を称えた碑である。原石は早い時期に失われ、この宋拓1本のみが伝えられる。そのため、古くから海内の孤本として珍重されてきた。一説には宋時代になお原石があったものの、碑文は摩滅して判読できなかったとも言われている。明時代の収蔵家・華夏の旧蔵品で、拓本に続いて明の豊坊、清の朱彝尊、潘祖蔭、銭大昕、何焯、何紹基らの題跋が書きこまれている。



晋唐小楷冊(宋拓) 晋～唐時代・4～8世紀

南宋の石邦哲の刻した博古堂帖は、別に越州石氏本とも称されるが、完本は伝存しない。この冊は王羲之の黄庭経・東方朔画賛・楽毅論や王献之の洛神賦など晋帖5種、虞世南の破邪論序・欧阳詢の尊勝陀羅尼経と心経、褚遂良の陰符経など唐帖6種、都合11種を収めている。清時代の翁方綱はこの冊を見ることができず、李宗瀚に勧めて購入させたものの、翁方綱は終生この冊を見ることがなかった。李氏十宝の一つとして喧伝されている。



千福寺多宝塔碑(宋拓) 顔真卿 唐時代・天宝11年(752)

西京龍興寺の楚金の請願により、長安の千福寺の多宝塔が建立された由来を記したものである。安史の乱(755～763)以前の顔真卿の作例は少なく、44歳の揮毫になる本作は、郭虚己墓誌(750)に次いで最も若い作例の一つ。はじめ長安の千福寺に建てられたが、のち西安府学に移され、現在は西安碑林に保存されている。伊秉綬の隸書の題記があり、拓本の後に王文治、陳鴻寿ら清人の題跋が記されている。

※注／題跋・・・拓本の帖首や帖末などの余白に書かれている文章。款記や考証、おぼえなどが記してあり、跋文から拓本の由来や旧蔵者などがわかることがある。

「中国五千年 漢字の姿[フォルム]」

三井聴氷閣拓本名帖の全貌 4月21日(土)～7月1日(日)

展覧会概要

三井記念美術館で所蔵する拓本は、近代の三井財閥にあって数々の要職を歴任した新町三井家 9代高堅（1867～1945）のコレクションであり、書の愛好家には高堅の雅号である「聴氷閣本」としてきわめて名高いものです。なかには貴重な宋時代の拓や、原碑がすでに失われ唯一現存する拓本である孤本も数多く含まれています。とりわけ清時代末の大コレクター・李宗瀚の四つの絶品、いわゆる李氏四宝のうち三点までが聴氷閣旧蔵です。

当館では、この聴氷閣本の全貌を文字の書かれた時代順に展示いたします。紀元前 5～4 世紀の中国最古の石刻文字から、唐時代の能書家たちまでの珠玉の名筆約 80 点が一堂に会します。あわせて、漢字の主な書体である篆・隸・草・行・楷書の発生についてパネルで説明を加え、初心者にもわかりやすく文字の歴史をたどります。

代表作品



石鼓文—中権本—（宋拓） 戦国時代・前 5～4 世紀

石鼓とは高さ・直径とも 60～70cm、胴中の膨らんだ臼状の石のことで、その周囲に刻された文字を石鼓文という。文字は極めて方整で、一字の寸法は 4～5cm。内容は、狩猟の楽しみを謳歌し、自然に対する祈福を述べたものである。秦の始皇帝のときに統一される以前の大篆という書体で、戦国時代秦の中期、祭祀を行ったときに作られたものと考えられている。本作は、数ある石鼓文の拓本中の最古本で、最多の 497 字を遺す。



孔子廟堂碑（唐拓孤本） 虞世南 唐時代・貞観 2～4 年（628～630）

虞世南（558～638）は浙江越州の人。僧智永の指導を得て楷書に優れ、南朝書道のよき伝統の中で人間的な暖かさと気品に溢れた独自の書風を完成させた。唐太宗は、長安の国子監にある孔子廟の修築を行い、その完成を記念し虞世南に命じて碑文の撰書に当たさせた。この碑は建碑後ほどなく火災にあって失われてしまい、拓本は本作が現存するのみである。その書はのびのびと穏やかで嫌味や癖が無く、実に高貴な格調を誇示している。



争坐位稿（宋拓） 顔真卿 唐時代・広徳 2 年（764）

顔真卿（709～785）は山東瑯邪臨沂の人。右僕射の郭英乂に奉ぜんとした書翰の草稿である。郭氏が権勢を誇る宦官、魚朝恩にへつらい、百官集会の席次をまげ、礼制を乱したことに対する抗議の一文で、それゆえ争坐位稿と呼ばれている。刑部尚書に在任中の 56 歳のときの行草書で、本文は全 64 行、その書は率意のうちに精彩さが満ち、唐王朝の権威を守るのは自分だけという自信や意気に溢れる潤達な書風である。

「中村不折碑帖コレクション」4月28日(土)～7月1日(日)

展覧会概要

書道博物館の所蔵品はすべて、当館を創設した中村不折（1866～1943）のコレクションです。画家であり書家でもあった不折が、自らの作品の潤筆料から資金を捻出し、その半生 40 年あまりにわたって独力で蒐集しました。その総数は 10,000 件以上にのぼり、中でも碑帖類は約 2,000 件という膨大な数を占めています。特に漢時代の隸書や、北魏時代の楷書の拓本は質・量ともに充実しています。この頃の隸書や楷書には不折も特に愛着を感じていたようで、不折自身の書作品にも、漢～北魏頃の拓本にみられる、野性的な力強さを内に秘めた書風が色濃く反映されています。今回の展示は、宋拓をはじめ最旧拓、初出土拓、最多字本など稀少な名品を中心に、無名ですが珍しい石刻資料の拓本も同時に約 80 点を公開、コレクションの内容を幅広く紹介します。書の研究に心血を注いだ、その情熱の帰着点ともいえるべき不折コレクションを多くの皆様にご鑑賞いただければ幸いです。

代表作品



泰山刻石—百六十五字本—（宋拓） 李斯 秦時代・前 219 年

秦の始皇帝が天下を統一した際、自らの功績を讃えるため泰山に建てた碑。左右対称で整齐たる姿を誇示した書風は、古来より小篆の典型と謳われた。223 字が 4 面にわたり刻されていたが、原石の大半は倒壊し、現在では 10 字程度の断片のみ伝わる。この百六十五字本は最多字であり、世界で唯一の 4 面全拓本である。明時代に華夏、次いで安国の所蔵となった。内題簽、帖中の注記、帖尾の 3 つの跋はいずれも安国が篆書で書いている。



西嶽華山廟碑—長垣本—（宋拓） 後漢時代・延熹8年（165）

古くから霊山として扱われた五嶽の一つ西嶽に建てられた記念碑。原石はすでに亡佚し、原拓本が 4 本のみ世に伝わるが、その中で最も字数を多く残すものがこの長垣本である。明時代に長垣出身の王文孫が所蔵していたことよりこの名がある。端正で気品ある書風は漢代隸書の第一品といわれ、清時代の学者・阮元はこの拓を「天下第一本」としている。明の王鐸や清の何紹基など、著名な書家、政治家、皇族、学者らの跋が並び、跋のみで別冊を成す。



十七帖—王穉登本—（宋拓） 王羲之 東晋時代・4 世紀

王羲之の手紙 29 通を集刻したもの。1 通目の冒頭が「十七日先書…」で始まることより、十七帖と総称される。王羲之の代表作として知られ、草書の極則として貴ばれてきた。柔軟さを保ちつつも文字の骨格が明瞭であり、草書の基礎を学ぶ上で最良の手本といえる。明の王穉登旧蔵にちなみ、この呼び名がある。数多ある翻刻本の中でも、王穉登本はその切れ味の良さで評価が高い。王穉登の堂々たる書「宋搨十七帖」が帖首を飾っている。

拓本の鑑賞の壺

●拓本とは

拓本とは、石や木、金属などに刻された文字や文様の凹凸部分に紙を押しあて、上から墨をつけて写しとったものです。コインの上に紙を乗せ、その上から鉛筆でこすって数字や文様を浮かび上がらせる遊びを経験したことはありませんか。これが拓本の原理です。コインを石碑に、鉛筆を拓包（綿を丸めて布で包んだもの。それに墨を含ませる）に置き換えてみましょう。石碑の文字部分に紙をのせ、拓包を紙の上からたたきように押しあて墨を打っていくと、石碑の凹面には墨がつかずに原紙のまま白く残り、凸面には墨がつきます。石碑の多くは、刻された文字部分が凹面ですから、文字部分が白く、文字の周囲が黒くなる拓本ができるのです。



群玉堂米帖
東京国立博物館蔵

書の世界では、石碑を拓にとったもの、あるいは名筆を石や木に刻して拓にとったものを特に「碑帖」、^{ひじょう}「碑法帖」などといい、書の鑑賞やお手本として古来より貴ばれてきました。世に知られる最古の拓本は唐時代のものですが、石碑を拓にとること自体はそれ以前から行なわれていたようです。

一般に、拓本は写しとった時代が古いものほど価値も高まり、^{きゅうたく}「旧拓」として大変珍重されます。なぜなら、石碑に刻された文字は、年月の経過とともに風化または損傷し、次第に原形から遠ざかってしまっていますが、旧拓を見れば、摩滅してしまった文字についても鮮明な字画を確認することができるからです。石碑そのものが失われた場合には、拓本のみがその原碑の字姿を伝えるものとなり、その資料的価値もさらに高くなります。



孔子廟堂碑
三井記念美術館蔵

こうした石碑からの拓本のほかに、中国歴代の名筆を石や木に刻して拓をとったものもあります。かつて、数少ない真筆の名品は、ごく限られた人々にのみ収蔵が許されていました。そうした稀少な作品を広く普及させるため、現在の印刷（いわゆるコピー）に相当するものとして拓本の技術が考案されました。^{おうぎし}王羲之などは、^{しよせい}書聖といわれながらも実は真筆が残っておらず、こうした拓本によってその書を鑑賞することができるのです。さらに時代を経るにしたがって、今度は拓本をとることそのものを目的として名筆を木や石に刻し、編集するようになりました。これを「法帖」と言います。

●拓本を彩る印と跋

名品といわれる拓本には、ほぼ必ずといっていいほど多くの印が捺されています。これは、拓本の旧蔵者や鑑賞者が捺した、自らの名を示す印であり、世に伝わる名品を所蔵、あるいは鑑賞した証を後世に残すために捺されたものです。時の政治家や学者、書家、皇族などのものが多く見られます。印のほかに、^{かんき}款記や考証、おぼえなどを記した跋が、拓本の帖首や帖末などの余白に書き込まれることも少なくありません。跋文から、拓本の由来や旧蔵者などがわかることもあります。こうした著名な人物の印や跋があることで、拓本の理解も深まり、その価値もまた一段と高まるのです。



西嶽華山廟碑
台東区立書道博物館蔵

●百聞は一見にしかず―古典の真の姿―

書の手本として拓本の印刷物を見ることの多い昨今ですが、拓調の微妙な味わいや、立体感あふれる線質の切れ味を観察するには、やはり拓本の実物を見るに限ります。古典の真の姿を、この「拓本」でじっくりと鑑賞していただければ幸いです。旧拓のなかでも貴重な宋拓本を中心としたわが国屈指の名品の数々を一挙に公開する今回の3館の展示は、そのまたとない機会となります。



雁塔聖教序 褚遂良
東京国立博物館蔵



蘭亭序 王羲之
三井記念美術館蔵



淳化閣帖一夾雪本一巻第七
台東区立書道博物館蔵



真草千字文 智永
東京国立博物館蔵



礼器碑
三井記念美術館蔵



薛稷・涅槃經碑
台東区立書道博物館蔵

●日本で蒐集された時期と3人のコレクター

清朝後期の碑学興隆に伴い、わが国では明治時代になって拓本が重視されるようになりました。この時期を境にコレクターが中国の拓本を購入し、多くの名品が日本へもたらされました。今回3館で展示される拓本の大半も、明治後期から昭和前期にかけて蒐集されたものです。



高島菊次郎 (東京国立博物館)

明治8年～昭和44年(1875～1969)。実業家。福岡県生。大阪商船、三井物産を経て王子製紙に入社、社長を務めた。漢学の造詣が深く、東洋館の開館を控えた1965年、300余件の中国書画を東京国立博物館に寄贈した。書跡、碑帖は早くから各種の刊行物に掲載された作が多い。



三井高堅 (三井記念美術館)

慶応3年～昭和20年(1867～1949)。新町三井家9代目当主。三井物産や三井銀行などの社長を歴任。入手した拓本は1000件近くにのぼる。最も精力的に集めたのは大正～昭和初期。清時代末の大コレクター李宗瀚の「李氏四宝」のうちの三点所蔵。三井記念美術館で所蔵するコレクションは約530点。



中村不折 (台東区立書道博物館)

慶応2年～昭和18年(1866～1943)。画家、書家であり、書道博物館創設者。中国書法史上重要なコレクション約16000件を蒐集、拓本は約2000件。江戸京橋に生まれ、少年期を長野で過ごす。上京後は小山正太郎、浅井忠に師事。4年間パリで修業し、ジャン＝ポール・ローランスらに師事。帰国後、太平洋画会会員。書は特異なスタイルを貫き、新宿中村屋のロゴや、森鷗外の墓碑を書いたことで知られる。

拓本の世界 — 3 館所蔵 善本碑帖展
広報用貸出写真 招待券プレゼント 申込書(FAX専用)

拓本の世界—3 館所蔵 善本碑帖展 の広報用写真(データ・紙焼き)／読者プレゼント招待券を希望される方は本用紙に必要な事項をご記入の上、広報事務局までFAXでお申し込みください。

- * 写真は展覧会の広報用としての使用に限らせていただきます。
- * 写真掲載にあたっては、【記載クレジット】を必ずご記載いただきますようお願いいたします。
- * 読者プレゼントの際には、写真を掲載し本展を開催期間中にご紹介いただきますようお願いいたします。またお手数ですが、招待券プレゼントの受付・発送などは貴編集部にてお願いいたします。
- * ご掲載紙・誌等を必ず広報事務局までご送付いただきますようお願いいたします。

貴社名	
メディア・部署	
ご担当者名	
ご住所	〒
電話/Fax	TEL: FAX:
E-mail アドレス	
貸出希望日	月 日 時頃まで
掲載予定日(発売日) (コーナー名・通信欄)	

	【記載クレジット】		
1	婁寿碑 (宋拓)	東京国立博物館蔵	☐ データ
2	晋唐小楷冊 (宋拓)	東京国立博物館蔵	☐ データ
3.	千福寺多宝塔碑 (宋拓) 顔真卿	東京国立博物館蔵	☐ データ
4.	石鼓文—中権本— (宋拓)	三井記念美術館蔵	☐ データ
5	孔子廟堂碑 (唐拓孤本) 虞世南	三井記念美術館蔵	☐ データ
6	争坐位稿 (宋拓) 顔真卿	三井記念美術館蔵	☐ データ
7	泰山刻石—百六十五字本— (宋拓) 李斯	台東区立書道博物館蔵	☐ データ
8.	西嶽華山廟碑—長垣本— (宋拓)	台東区立書道博物館蔵	☐ データ
9.	十七帖—王穉登本— (宋拓) 王羲之	台東区立書道博物館蔵	☐ データ

読者招待券	3館セットの招待券を ☐ 10 名様分希望します * 先着 20 件まで。予定数を越えたお申込があった場合は、恐縮ですがお断りさせていただきます。
-------	---

◆報道関係の方からのお問い合わせ先

三井記念美術館広報事務局 担当：富樫、松井

TEL 03-3814-7713 FAX 03-5689-0455

〒113-0033 東京都文京区本郷 4-24-8 春日タワービル 11F